

解析中であるが、頭蓋底部のキフォーゼの他に、頸椎と針台の間にも、各分類群に共通して、種々の程度のキフォーゼがみられることを発見し、その成果をまとめつつある。

- 5) ニホンザルの生態、形態学的変異に関する研究
和田 一雄
- 6) インド産狭鼻猿の生態・形態学的変異に関する研究
和田 一雄
- 5), 6) については年報第2巻7頁参照。
- 7) 高崎山生息ニホンザルの行動と個体群動態

西 邨 顕 達

ニホンザルの行動の令変化に関する調査およびボビュレーション・センサスをいずれも高崎山において行なった。なお、後者は生活史研究部門の大沢秀行氏および杉山幸丸氏、および京大理学部自然人類学研究室の増井憲一氏との共同研究である。

なお、昭和47年度文部省 海外学術 研究員招へいにより、昭和46年9月1日より11月30日までキール大学のW. Herre 教授が来日、当部門の江原が対応し、日本人類学会、京大理学部、日本家畜学会、在来家畜研究会、名大農学部等で、講演および特別講義が行なわれた。

総 説

- 1) 野沢謙 (1972): 集団遺伝学の立場からみたサル。
バイオテク 3: 413-417。
- 2) 江原昭善 (1972): 人類学からみた化石人類の言語的生活。言語 7: 493-502。
- 3) 江原昭善 (1972): 外国人研究員とその対応教官の悩み。学術月報 9: 578-581。

論 文

- 1) Nozawa, K. (1972): Population genetics of Japanese monkeys. I. Estimation of the effective troop size. *Primates* 13: 381-393.

学 会 発 表

- 1) ニホンザルの四肢畸型への遺伝学的アプローチ
野 沢 謙
第17回プリマーテス研究会 (1973)
- 2) 霊長類とくにニホンザルの「て」の使用
江原昭善・河合雅雄
第26回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1972)
- 3) Age changes in the vocalization of free-ranging Japanese monkeys.

Akisato Nishimura

Fourth Int. Congr. Primatol., Portland (1972).

- 4) ヤクザルにおいて固定された PGM₂ 座位の変異について

庄武孝義・大倉よし子・野沢 謙

第17回プリマーテス研究会 (1973)

- 5) ニホンザルにおける LDH および MDH アイソザイムの多型現象について

庄 武 孝 義

第17回プリマーテス研究会 (1973)

生活史研究部門

杉山幸丸・小山直樹

田中二郎・大沢秀行

研 究 概 要

- 1) ニホンザルの個体群生態学的研究

杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行

1. 霊仙山生息ニホンザル地域個体群の動態。特定群の全個体標識識別を基礎に、出生・死亡・転籍による個体群変動を、長年月にわたる人口学的研究の一環として、継続進行中である。同時に、隣接する純野生群についても、精密さは欠くが人口学的変動の資料を蓄積しつつある。
2. 嵐山生息ニホンザルの個体群変動についての資料を集積し、現在共同研究者らとその分析を行ないつつある。
3. 高崎山生息ニホンザルの個体群動態。変異研究部門の研究概要参照。
- 2) インド亜大陸を中心とする狭鼻猿の動物地理学的研究

杉山幸丸・小山直樹・和田一雄

インド・セイロンに生息する狭鼻猿、*Macaca* 属と *Presbytis* 属の分布とすみわけの実態を明らかにし、種間および属間の環境への適応のしかたの変異を、主として、*M. mulatta* と *M. radiata* の分布境界線上で探る一方、異なった環境下における各種（とくに *P. entellus* と *M. mulatta*）の生活様式とその変異を、主としてヒマラヤ高地において探った。これは長期継続研究の第1段階である。

- 3) 狩猟採集民の生態人類学的研究

田 中 二 郎

現存狩猟採集民、とくに南アフリカのブッシュマンを対象に、生息地の食物量と遊動、摂食量、行動量、行動範囲から社会構造にいたる生態学的研究を進めており、究極的には各種霊長類の社会生態学的研究と関連させながら、人類進化の過程における生活様式の復元を試みよう

うとする。昭和46～47年度にわたる第2次野外調査によって、生計様式、集団構造の継続的な観察追求を行ない、かつ長期にわたる人口動態を明らかにするため資料を蓄積しつつある。

論 文

- 1) 杉山幸丸 (1972): 霊長類の進化における社会と個性性の発達。生物科学 23: 183—188。
- 2) Sugiyama, Y. (1972): Social characteristics and socialization of wild chimpanzees. In *Primate Socialization*. (F.E. Poirier, ed.) pp. 145-163. Random House, New York.
- 3) 真野哲三・乗越皓司・小山直樹 (1972): ニホンザル嵐山A群の性、年齢、体重に関する調査結果。人類学雑誌 80: 381—383。

生理研究部門

大沢 済・大島 清
目片文夫

研究概要

1) 温度適応の研究

大沢済・大島清・目片文夫・原文江¹⁾

近藤四郎・登倉尋実・岡田守彦の3氏との共同で、温度にたいする生理的適応の総合的な研究を行なっている。一定の温度に適応したニホンザルおよびカニクイザルの種々の温度におけるエネルギー代謝、体温調節に関する生理的諸現象、ノルエピネフリンなどにたいする反応等を比較した。また、ニホンザルについて hunting reaction を血管平滑筋の収縮機構より、理論的に説明しようと試みた。

2) 霊長類の生殖生理に関する基礎的研究

大島 清

ニホンザルの交尾期の生息地域ごとのズレが環境要因か、群間差の遺伝的要因によるものか、または群れの構成の変化といった生態的要因によるものかを追求する。

3) プロスタグランディンの黄体退縮機序に関する神経内分泌的研究

大島 清

プロスタグランディンの催流産作用のメカニズムをウサギ、サル、ヒトで比較する。

4) ニホンザル胎盤性蛋白ホルモン (MPL) に関する研究

大島 清

ヒト胎盤性蛋白ホルモン (HLP) と比較しながら MPL の測定法を確立し、これとサルの生殖-妊娠周期や胎児活性との関連性を究明しようと計画している。

5) 分娩時子宮収縮伝播に関する電気生理学的研究

大島 清

分娩時子宮収縮の発生、伝播の様式について分娩時子宮に5～8個の電極を装着し、収縮伝播パターンを解析しようとするものである。

6) テレメトリーによるサル種間の姿勢の比較とサルの内臓機能との関連に関する研究

目片文夫

年報第2巻9頁参照。

論 文

- 1) Oshima, K., C. Johnson and A. Gorbman (1972): Relations between prolonged hypothyroidism and electroneurophysiological events in trout, *Salmo gairdnerii*. Effects of replacement doses of thyroxine. *Gen. Comp. Endocrinol.* 3:529-541.
- 2) Oshima K., and K. Matsumoto (1972): Absorption of prostaglandin E₂ and uterine sensitivity of the non-pregnant and pregnant monkey in vivo. *Prostaglandins* 3:447-455.
- 3) 大島 清 (1973): 関伊川河川水によって誘発されたシロサケの異常嗅球誘起脳波。魚と卵 140: 1—4。
- 4) 西村敏雄・大島 清・他 (1973): monkey placental protein hormones に関する研究 (第1報)。日本内分泌学会雑誌49: 379。

学 会 発 表

- 1) Absorption of orally-administered prostaglandin E₂ and uterine contractility and body temperature in monkeys.

K. Oshima, M. Sasada, K. Matsumoto,
K. Ishii and K. Matsubayashi

Third Int. Symp. Soc. Psychoneuroendocrinol.,
London (1972).

- 2) キンギョの飼育温度を変えたときの肝臓乳酸脱水素酵素アイソザイムの型にたいする飼育温度の影響—Ⅲ

佃 弘子・大沢 済

第43回日本動物学会 (1972)

- 3) 湾内海水シロサケの嗅球誘起脳波による母川回帰機序に関する研究

大島 清

第26回日本医学会シンポジウム,

¹⁾ 教務職員